

2021年度 高槻中学校・高槻高等学校 学校評価

1 めざす学校像

■めざす学校像

次代を担う人物を確かに育成する最優の進学校を目指す

■教育方針

確かな学力・豊かな人間性・健やかな心身の育成と、変化する社会に積極的に対応し得る能力・意欲・創造性を養う

2 中期的目標

【中期的目標】、【課題を踏まえた実践計画】

① SSH(スーパーサイエンスハイスクール)、SGHN(スーパーグローバルハイスクールネットワーク)としての教育活動およびコース制の充実

指定2期2年目のSSH(スーパーサイエンスハイスクール)校としては「データサイエンスの素養を持ち先端学力知とグローバルマインドセットを備えた生命科学系リーダーの育成」を、5年間取り組んできたSGH事業を引き継ぐSGHN(スーパーグローバルハイスクールネットワーク)参加校としては、「大阪医科薬科大学と一体化したアジア圏の人々の健康を支えるグローバルリーダーの育成」を目指し、より高度で質の高い教育活動の展開を図る。また、コース制は導入8年目となり、中3以降の学年が、GS(グローバルサイエンス)、GA(グローバルアドバンス)、GL(グローバルリーダー)のカリキュラムに則った学修を進めている。今後、コースの特性に応じた教育プログラムのより一層の充実を図っていく。

② School Mission「Developing Future Leaders With A Global Mindset」の実現を図る教育活動の展開

本校のミッション実現に向け、卓越した語学力や国際的な視野を持って、世界を舞台に活躍できる次世代のリーダーを育成するための教育活動をより充実させる。

③ 高大連携の教育プログラムの充実

本校は、同一法人である大阪医科薬科大学との連携、SSH(スーパーサイエンスハイスクール)の指定、SGHN(スーパーグローバルハイスクールネットワーク)の参加というメリットを活かし、より多様で質の高い高大連携の教育活動、教育プログラムの充実を図っていく。

④ 「探究型」学習の充実と学力の三要素の育成

本校は、特色教育の一展開として「探究型」学習に取り組んでいる。思考力を重視した問題解決的な学びは、次期学習指導要領、それを踏まえた大学入試改革のキーワードにもなっている。そこでは、新しい時代に求められる資質・能力の三つの柱として[知識・技能]、[思考力・判断力・表現力]、[学びに向かう力・メタ認知]が挙げられている。自己評価では、深い学びが実現できているという項目の自己評価が93%となっており、各教科で、知識の習得(インプット)だけではなく、考察と仮説の構築、推論による検証を繰り返す体系的な学びを促し、それを運用(アウトプット)する力を体得させるような学習を、本校の教育活動全体を通じて積極的に取り入れている。また、幅広い学びの成果や活動を記録するポートフォリオを活用し、生徒自身が振り返りや学習計画の改善、キャリアデザインできるよう指導している。さらに、全学年で年度末に学修インタビューを行い、生徒自身が教育活動全般を振り返って省察しプレゼンテーションすることにより、主体的に学ぶ力や意欲の伸長を図っていく。

⑤ 高い学力が確かに身につく指導と成果の検証

進学実績の飛躍的な向上を図るため、各学年が年間計画で取り組む学力向上のための取り組みの実施状況とその成果について、節目節目で検証を行い、学校全体として実効性のある改善策を実施する。また、基礎・基本を徹底し、十分な理解度や到達度をもった上で、知識活用型の発展的な学習に取り組めるよう、特に中学段階における学習指導を徹底する。さらに、生徒の潜在能力を発揮させ、学力を十分に伸ばせるよう全校をあげて学力向上に関する具体的な取り組みを実践していく。

⑥ 徳育教育の充実

生徒が生命を大切に思う気持ちや社会のルールを身につけることができるよう、年間指導計画に基づき道徳教育を継続的に行っている。共学5年目を迎え、服装、挨拶、清掃活動など生活の基本を大切にしている指導を徹底しながら、徳育教育の充実を図っていききたい。清掃活動が行き届いているという項目の評価は改善しているが(項目24が2017年度63%→2018年度62%→2019年度72%→2020年度81%→2021年度79%)、今年度も継続して取り組んでいきたい。平和学習を目的とした中学修学旅行、ボランティア活動の奨励、道徳教育の充実、人権教育の推進等とともに、学校の様々な教育活動を通して、心豊かな人間を育成していききたい。

⑦ 社会貢献活動としてのボランティアの推進

2016年度よりボランティア活動支援センターを校務分掌の中に位置づけ、ボランティア活動を推進している。本校のミッション実現のため、多様で豊かな人間関係にふれる体験を教育活動の中に位置づけ、リーダーが持つべき他者を思いやる心、奉仕の心、課題解決力を育みたい。社会貢献活動を中心に行うボランティア委員会と、生徒募集イベントにおいてボランティア活動を行っている「T-BEST」の活動が、世界や人類の福祉に貢献できる人物の育成に繋がることを期待している。

⑧ 指導力および資質の向上を図る教員研修の実施

本校の特色ある教育の実践には、教員の指導力が不可欠である。教科指導や教育的課題についての学校内外での研修をより充実させ、日常的なOJTの活性化を図っていききたい。大学入試改革、学習指導要領の改定を目前にひかえ、今年度も主体的・対話的で深い学びを推進していくための研修を実施し、教育活動の深化、協働性を高める取り組みを実践していく。

⑨ ICT利活用教育の推進

これからの高度情報化社会を生き抜くために必要なICTスキルを養うため、メディアリテラシーを含めたICT教育を充実させていく。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [2021 年実施分]	学校協議会からの意見
<p>【総論】</p> <p>【教員の評価より。自己評価】 【回答数 2021 年度 72 ・ 2020 年度 42】</p> <ul style="list-style-type: none"> * +10%以上の改善項目 30 項目中 4 項目（昨年度 30 項目中 16 項目） * 評価 90%以上の項目 23 項目（昨年度 14 項目） <li style="padding-left: 20px;">80%以上の項目 29 項目（昨年度 28 項目） <li style="padding-left: 20px;">70%以下の項目 0 項目 <p>昨年度、教員の回答数が少なかったが、呼びかけを行い改善した。経年比較で 10%以上の改善したのは、「PDCA サイクルにのせて各年度の教育計画が作成されている」、「生徒一人ひとりが興味・関心・適性に応じて進路選択ができるよう、適切なアドバイを行っている」、「校長は自らの教育理念や学校運営についての考え方を明らかにしている」、「教職員間の相互理解、信頼関係に基づいて円滑に教育活動が行われている」の 4 項目だった。「教職員間の相互理解、信頼関係に基づいた円滑な教育活動が行われている」については(57%→69%→83%)と改善し、70%以下の項目は 0 となった。</p> <p>【生徒の評価より】</p> <p>【中学生】</p> <ul style="list-style-type: none"> * 評価 90%以上の評価を受けた項目 15 項目（昨年度 16 項目） <li style="padding-left: 20px;">80%以上の項目 28 項目（昨年度 28 項目） <li style="padding-left: 20px;">70%以下の項目 0 項目（昨年度 0 項目） <p>中学生全体で、30 項目中 28 項目が 80%以上の評価となり、高い評価を維持できている。しかし、コロナ禍で学年行事が行えなかったことが影響していると思われる項目もあるので、引き続き検討・改善していきたい。</p> <p>学年比較では「学校の生活指導は適切ですか」「ホームルーム活動は活発で、クラス全体が関わっていると思いますか」「生活指導の方針に共感できますか」「学校は命の大切さについて、十分に指導していると思いますか」「学校は地震や火災などが起こった場合について、どうすべきかをよく知っています」といった項目に差があり、学年の取り組みのよい点を検証して波及していきたい。</p> <p>【高校生】</p> <ul style="list-style-type: none"> * 評価 90%以上の評価を受けた項目 4 項目（昨年度 3 項目） <li style="padding-left: 20px;">80%台の項目 21 項目（昨年度 22 項目） <li style="padding-left: 20px;">70%以下の項目 1 項目（昨年度 1 項目） <p>高校生全体で 30 項目中 25 項目が 80%以上の評価となり、高い評価を維持できている。学年比較では、「生活指導の方針に共感できますか」、「部活動は適切に活動していると思いますか」、「学校は儀礼的な行事を大切にしていると思いますか」といった項目に差がみられ、特に 80%を切る項目について、検討・改善に取り組みたい。</p> <p>【保護者の評価より】</p> <p>【中学保護者】</p> <ul style="list-style-type: none"> * +10 以上の改善傾向 30 項目中 1 項目 <li style="padding-left: 20px;">（項目 18 学校でのクラブ活動は適切に活動していると思いますか。56%→69%） * 90%以上の評価を受けた項目 7 項目（項目 1・19・21・22・24・25・26） <li style="padding-left: 20px;">70%以下の項目 2 項目 <p>昨年度の評価と大きな変化はなかった。80%以上の評価をいただいた項目は 28 項目中 19 項目であった。「子供は、授業が楽しくわかりやすいと言っていますか」(平均 76%)についてはさらなる向上をはかりたい。また、昨年度より課題とした「学校でのクラブ活動は適切に活動していると思いますか」は 10%以上改善（項目 18 が 56%→69%）し、一定ご理解を得てきているように思われる。</p> <p>【高校保護者】</p> <ul style="list-style-type: none"> * 評価 90%以上の評価を受けた項目 8 項目（昨年度 5 項目） <li style="padding-left: 20px;">80%台の項目 14 項目（昨年度 16 項目） <li style="padding-left: 20px;">70%以下の項目 0 項目 <p>昨年度と大きな変化はないが、28 項目中 22 項目は 80%以上の評価を得ており、70%以下の項目は 0 という評価をいただいている。</p> <p>【総評】</p> <p>アンケート結果から今年度も本校の教育活動の改善に対してあらゆる立場から一定の評価が得られていることがうかがえる。課題であった、クラブ活動、生活指導の項目についても一定の評価が得られつつある。一方、評価が 70%以下の項目もあるので、アンケート結果を真摯に受け止め、継続して改善に取り組みたい。すべての項目が 80%以上となるよう、学校としての理念や指導方針について情報を発信し、理解を深めていただけるよう教育活動の改善とご家庭との連携に努めていきたい。</p>	<p>2021年度に実施された学校評価アンケート結果について、以下の通り意見を申し述べます。</p> <p>1. はじめに</p> <p>教職員、生徒、保護者のいずれにおいても、ほぼすべてのアンケート項目についてプラス評価の回答が70%以上を占めていることは高く評価したいと思います。とりわけ、中学保護者よりも高校保護者の方がプラス評価の回答率が高くなっており、換言すれば在学期間を重ねるほど好評価の傾向にあり、これは良好な学校運営を反映していると考えます。生徒においては、高校生の方がプラス評価の回答率が低いという逆転が生じていますが、これは批判精神の充実という成長過程を反映していると思われ、本校に限った傾向ではないでしょう。以上を踏まえつつ、以下、各論に触れます。</p> <p>2. 教職員へのアンケート結果より</p> <p>2020年度から2021年度にかけてプラス評価の回答率が10ポイント以上の増となった項目は4つあります。そのうち3つは2019年度から2020年度にかけてプラス評価の回答率が伸び悩んだ項目です（項目2, 13, 21）。その結果、2019年度と比較すると30の項目中18でプラス評価の回答率が10ポイント以上の増加を果たしていることとなります。この2年間における取り組みが奏功してのことでしょうから、その取り組み過程を記録化しておくことが重要と思われまます。とりわけ、2019年度→2021年度の変化において、項目18（社会のルール指導）が58%→82%、項目22（教職員間の信頼関係）が57%→83%となっていることは特筆しておきたいと思えます。</p> <p>3. 生徒へのアンケート結果より</p> <p>大きな問題があるとは思われませんが、いくつかの項目において、評価が学年間でばらつくものが散見されることを指摘しておきたいと思えます。すなわち、中学では項目6（生活指導）、10（ホームルーム）、12（生活指導）、22（経験）、25（命）、28（災害）において、高校では項目10（社会性）、11（生活指導）、15（部活動）、27（儀礼的行事）において、それぞればらつきが見られます。下線を付加した項目においては、プラス評価が60%台まで落ちている学年があります。その原因は不明ですが、学年間でばらつきがあることは好ましいことではありませんので、原因の探求と対策を検討すべきであろうと思われまます。</p> <p>4. 保護者へのアンケート結果より</p> <p>プラス評価の回答率が80%以上の項目が大半であり、しかも一昨年度と比較すると全体的に上昇傾向ですが、次の項目については70%台から伸び悩んでいることが指摘できます。</p> <p>【中学について】項目3（授業の分かりやすさ）、4（学習内容認知）、5（学習指導）、11（健康相談）、14（進路指導）、18（クラブ活動）、27（学校との対話）、28（保護者会）【高校について】項目5（到達度別学習）、11（健康相談）、18（クラブ活動）、27（学校との対話）とはいえ、90%近くの中学生、高校生は授業が理解や進度に問題がないと回答し、保健室、相談室の充実にも問題がないと回答しています。中学生の進路指導、進路意識の向上についてもプラス評価が80%台を維持しています。したがって、上述した項目について伸び悩んでいるのは家庭内でのコミュニケーションの問題が伏在しているように思われ、10代の若者の特性を考えると、問題視すべき状況とは考えられません。このなかであえて特筆するとすればクラブ活動の問題と思われまます。クラブ活動についてのプラス評価が伸び悩むのは、教職員の労働環境の問題及び進学校という性格によるクラブ活動の限界が背景にあると思われるため一概に評価しにくいところですが、クラブ指導の外部委嘱を進めることによりプラス評価の向上がはかれるのではないかと考えまます。</p> <p>4. まとめ</p> <p>以上の次第で、クラブ活動の問題を除いて、これまでの改善努力が高いレベルで実っているといえ、向後の課題はその維持・継続にあると思われまます。クラブ活動の問題は、教育界全体の課題になっていますので他校の取り組みについて情報収集しながら、バランス良く改善していくことが課題になると思われまます。</p>

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
①SSH・SGHN・GLコースの充実	(1) SSHの教育活動の充実 (2) SGHNとして教育活動の充実 (3) GL コースの教育活動の充実 (4) 中学の教育内容の充実と進路意識の向上 (5) コース選択に関するガイダンスの実施	(1) 課題研究やその成果の発表、SS セミナー、サイエンスキャンプ、科学技術コンテストへの参加 (2) 課題研究やその成果の発表、グローバルセミナー、Stanford 大学オンライン講座 (3) 探究活動の充実、コース研修の企画・実施 (4) ア. 基礎基本の修得と定着の徹底 イ. キャリアガイダンス進路講演会「ようこそ先輩」(中1・中2) 選択式進路講演会(中3) (5) ア. コース説明会(生徒対象、保護者対象) イ. 中学の保護者対象学年集会において説明	(1・2) 各教育プログラムの実施後の生徒アンケート (3) 高1、高2生の項目2が85%、項目4が85% (2020年度項目2が高1は89%、高2は89%、項目4が高1は93%、高2は86%) (4) ア. 中学生の項目4の肯定的評価が85% (2020年度93%) イ. 中学生の項目20の肯定的評価が85% (2020年度87%) (5) ア. 中1・中2で各1回 イ. 中学保護者の項目1の肯定的評価が90% (2020年度92%)	(1) 今年度も科学技術・理科・数学に関する能力やセンスの向上に役立つ、科学技術・理科・数学の面白そうな取り組みに参加できる、課題研究・理数系の学習に対する意欲がさらに向上する、課題研究の幅が広がる、理系学部の進学に役立つ、大学進学後の志望分野探しに役立つ、将来の就職探しに役立つ、といった項目で生徒の肯定的な評価が80%を上回っていた。(○) (2) 課題研究において、グローバルヘルスと関連づけて課題設定ができた。先行研究を調べ、課題の背景や問題点を意識できた、社会科学的または統計的に資料の収集・分析ができた、といった項目で生徒の自己評価が高かった。(○) (3) 項目2の高1が95%、高2が94%であった。昨年度より4ポイント向上していた。 項目4の全体の平均が88%と高い評価を維持できた。コース別研修旅行については、新型コロナウイルス感染症の影響で実施できなかった。 課題研究やコースの特長を活かしたプログラムの充実が浸透してきているが、今後も生徒の満足度を維持できるよう取り組んでいきたい。(○) (4) ア. 中学生の項目4「授業が理解できている」の肯定的評価が、昨年度93%が、95%であった(○) イ. 中学生の項目20「学習意欲や進路意識が向上するような指導をしている」の評価が昨年度87%だったが、84%であった。学習指導を一層充実させていきたい。(○) キャリアデザイン進路講演会は新型コロナウイルス感染症により今年度も実施できなかった。 自己評価の項目4において、肯定的評価が96%であった。(○) (5) ア. 中1・中2で各一回計画通り実施した(○) イ. 項目1「学校は教育方針をわかりやすく伝えている」の肯定的評価が93%と今年度も90%を上回ることができた。学年集会などを通して学校の方針をより理解していただくよう努めていきたい。(◎)
②School Mission の実現を図る教育活動の展開	「Global Mindset」を持った次世代のリーダーを養うための教育活動の実施	ア. 次世代リーダー養成プログラム(英国研修、米国研修)の実施 (2021年度は中止) イ. ターム留学(カナダ、アメリカに12月末～3月上旬まで留学) (2021年度は中止) ウ. 特色教育としての英語教育の充実(ケンブリッジ英語)、使える英語を身につけるための英会話の授業(オンライン英会話含む) エ. 英語4技能を測定するGTEC、ケンブリッジ英検の受験(高1) オ. 言語活動の充実 カ. International Young Leaders Advancement Programme(GAコース) キ. コミュニケーション研修(中1) ク. グローバルセミナー ケ. 台湾研修(GAコース) コ. 海外の中等教育学校(延平高級中学:台湾、台中第一高級中学、ミンゼンティエー高校:パラオ)との提携と交流行事 サ. 海外フィールドワーク(GAコース:パラオ)	・各プログラムの実施 ・自己評価において項目15「探究的な教育活動が行われている」の肯定的評価が86% (2020年度85%)	ア・イ. 新型コロナウイルス感染症の影響により実施できなかった。 ウ. 中学では英語を週8時間配当し、内2時間は英会話(中3ではオンライン英会話)、1時間は英語多読を実施した。(○) エ. オ. キ. クは、計画通り実施した。有意義な研修が行えた。 カ. ケ. コ. サ. 新型コロナウイルス感染症の影響によりオンラインでの実施に変更した。 シ. キャリアデザイン進路講演会は新型コロナウイルス感染症により実施できなかった。自己評価の項目12において、肯定的評価が90%であった。(○)

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">③ 高大連携の教育プログラムの充実</p>	<p>高大連携の教育プログラムの開発</p>	<p>ア. 大阪医科薬科大学との連携 a) 医学部 SSH事業への支援、SGHN事業への支援、基礎医学講座、医学部実習(メディカルサイエンストレーニング)、最先端医学教室、高大接続課題実習 b) 薬学部 サマーサイエンスプログラム、基礎薬学講座 c) 看護学部 思春期教室 イ. 京都大学…SSH、SGHNの活動における連携 ウ. 大阪大学…SSHの活動における連携 エ. 大阪工業大学…SSHの活動における連携 オ. 東京大学…SSHの活動における連携 カ. 大阪市立大学…博士課程の学生による課題研究の支援 キ. 京都工芸繊維大学…SSH活動の連携 ク. 三重大学・芝浦工業大学…SSH活動における共同研究 ケ. 立命館大学経営学部…GLコース生希望者のアントレプレナーシップ講座 コ. SSH事業での大学研究室訪問 サ. GAコースにおける海外大学との交流プログラム a) スタンフォード大学国際異文化教育プログラム b) ケンブリッジ大学学生とのリーダーシップ研修 c) 台湾研修における国立台湾大学、台北医学大学での研修 セ. GSコースにおける海外大学との交流プログラム a) 台湾研修における国立交通大学、台北医学大学での研修 (2021年度は中止)</p>	<p>・各連携事業の実施 ・高1、高2生の項目22「学校の教育活動を通して多様な経験・体験ができていていると思う」の肯定的評価が85%。(2020年度高校生87%)</p>	<p>・大阪医科薬科大学との高大連携プログラムが充実したかたちで実施できた。(◎) ・他大学との連携プログラムについても概ね計画通り実施した。(○) ・スタンフォード大学国際異文化教育プログラムと連携したスタンフォード e-takatsuki を計画通り実施できた。(○) ・GSコースの台湾研修は、新型コロナ感染症の影響により実施できなかった。 ・GLコースにおいて、立命館大経営学部との連携事業「アントレプレナー講座」をオンライン併用で開講し、15名が受講した。(○) ・項目22「学校の教育活動を通して多様な経験・体験ができていていると思う」の肯定的評価が高1、87%、高2、87%と生徒の満足度が高かった。(○)</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">④ 探究型学習の充実と資質・能力の三つの柱の育成</p>	<p>(1) 高校生の「探究型」学習の充実と中学生段階での素地作り (2) 資質・能力の三つの柱(「知識・技能」「思考力・表現力・判断力」「学びに向かう力・人間性」)の育成</p>	<p>ア. GSコースにおけるSS課題研究 イ. GAコースにおけるグローバル課題研究 ウ. GLコースにおけるクリティカルシンキング エ. 中1 総合学習で行う学びのリテラシー オ. 中2 総合学習で行う課題解決型学習 カ. 各教科における言語活動(プレゼンテーション、グループ発表、ディベート)の実施 キ. e-ポートフォリオの作成指導 ク. 学修インタビュー(中学1年～高校2年)</p>	<p>・各教育プログラムの実施 ・自己評価において項目6「各教科の見方・考え方を働かせながら、知識を関連づけたら、考えを形成したり、解決策を考えたり、創造したりする深い学びが実現できている。」の肯定的評価が85%(2020年度93%)</p>	<p>アからキの項目を実施した。クは、昨年度に続いて新型コロナ感染症の影響により実施できなかった。 ・自己評価項目6が93%であった。次期学習指導要領の目標に対応させながら教育活動の充実と資質能力の向上を図っていきたい。(○)</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">⑤ 高い学力が確かに身につく指導と成果の検証</p>	<p>到達目標 (A) 難関国立10大学合格者130名 (B) 国公立医学部+大阪医大合格者40名 (C) 中学卒業時の英語力50%が英検2級以上</p>	<p>(1) 進学実績の飛躍的な向上を図るための取り組み ア. 各学年が取り組む学力向上策 (2) 中学段階における学習指導の徹底 ア. セルフマネージメントプランナーを積極的に活用し学習習慣の向上を図る。 イ. 家庭学習時間2時間以上を徹底する。 (3) 進路指導部主導による学力向上 ア. 模試結果のフィードバックをもとにした復習。模試における目標の明確化。 イ. 日々の学習での基礎基本の徹底 ウ. 好ましい学習習慣を身につけるための指導 (5) アフタースクールアカデミック(AA)講座のさらなる充実と受験対策の強化 (6) 進路意識を向上させるキャリア教育の充実 (7) 高3三学期の受験指導の強化</p>	<p>(1) 各学年の学習到達度の状況と学力向上策の成果について、学期毎に検証する (2) 中学生の評価において項目18「自学自習の態度や家庭学習が定着するように指導している」の肯定的評価が85% 項目20「学習意欲や進路意識が向上するような指導をしている」の肯定的評価が85%(2020年度項目18が86%、項目20が87%) 中学卒業時の英検2級合格率50%以上 (3)(4) 高校生の評価において項目20「学校は授業と補習や講習などで進路実現に必要な学力の充実と伸長を図るよう努めている」の肯定的評価が85%(2020年度88%) (5) 高2高3で実施 (6) 中1、中2、高1で講演会を年1回実施 (7) 二次対策講座の組織的な開設</p>	<p>(1) 各学年で年間計画を立て学期ごとに職員会議で報告を行った。生徒一人ひとりに目を向けた成績検討会・出願先検討会を実施し、適切な時期に適切な進路指導を行った。(○) (2) 「自学自習の態度や家庭学習が定着するように指導している」の項目が昨年度86%から90%とさらに上昇し、「学習意欲や進路意識が向上するような指導をしている」も84%であった。(○) 中3卒業時点の英検合格者2級以上33.8%準2級42.1%で今年度はベンチマークを達成できなかった。(×) (3)(4) 高校生の項目20が93%とさらに向上した。好ましい学習習慣、その基礎となる生活習慣を身につけられるよう指導を継続し、学力保障と進路実現を図っていきたい。(◎) (5) 高1から高3を対象に実施した。参加者は少なかったが、発展的な内容を取り扱う学期中講習と基礎的な内容を固めるAA講座というすみ分けを図り、生徒のニーズに応えることができた。(○) (6) 新型コロナの影響で講演会は実施できなかった。特に中学生の項目19は78→84→88%→88%→88%、項目20は65%→74%→89%→87%→84%と一定進路意識を向上させることができている。(○) (7) 三年前より卒業式の日程を2月末に設定し、共通テスト後の受験指導を強化できた。(○)</p>

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">⑥ 徳育教育の充実</p>	<p>(1) 生活の基本を大切にす指導の徹底</p> <p>(2) 平和学習を目的とした修学旅行の実施</p> <p>(3) 道徳教育の充実</p> <p>(4) 人権教育の推進</p>	<p>(1) 生活の基本を大切にす指導の徹底</p> <p>ア. 服装</p> <p>イ. 挨拶</p> <p>ウ. 清掃活動←毎日清掃指導+週2回の全校清掃の実施</p> <p>(2) 平和学習を目的とした修学旅行(中3)</p> <p>(3) 中学3年間を通した系統だった道徳教育</p> <p>(4) 年間計画に基づく人権教育</p> <p>ア. 毎学期1回人権LHRの実施 [各学年のテーマ]</p> <p>中1: 他者を理解し、尊重する心を持つ</p> <p>中2: 心身に障がいのある人々の人権を考える</p> <p>中3: 「沖縄」を通して、平和と人権問題について考える</p> <p>高1: 民族・人種などに関わる諸問題について多角的な理解を深める(SDGsを念頭に)</p> <p>高2: 在日外国人に関わる諸問題を中心とした人権問題</p> <p>高3: 進路と人生に関する人権問題</p>	<p>(1) 生徒の評価において項目中学11 高校10「学校は社会のルールや社会性を身につけるような指導を十分にしている」、中学13 高校12「基本的な生活習慣やマナーを身につけられるような指導が行われている」の肯定的評価が中学生・高校生ともに85%</p> <p>(2020年度中学11が91%、高校10が82% 中学13が92%、高校12が81%)</p> <p>自己評価において項目24「清掃活動が行き届いている」の肯定的評価が85%</p> <p>(2020年度81%)</p> <p>(2) 系統だった平和学習の実施</p> <p>(3) 中学生の評価において項目26「学校は人権の大切さについて、十分に指導している」の肯定的評価が85%</p> <p>(2020年度84%)</p> <p>(4) 高校生の評価において項目26の肯定的評価が85%</p> <p>(2020年度84%)</p>	<p>(1) 生徒の評価において項目中学11 高校10「学校は社会のルールや社会性を身につけるような指導を十分にしている」が、中学80%→49%→91%→92%、高校68%→85%→82%→86%であった。基本的なルールを全校で統一して指導し、きちんとした生活習慣が身につくよう指導していきたい。(○)</p> <p>自己評価において項目24「清掃活動に充分取り組んでいる」の肯定的評価が62%→72%→81%→79%であった。清掃指導の強化・全校清掃・大掃除などにより学習環境の美化をさらに定着させたい。(△)</p> <p>(2) 新型コロナの影響により、日程をずらして3月に実施した。事前研修と現地での平和学習が実施できた。</p> <p>(3) 中学生の項目26「学校は人権の大切さについて、十分に指導している」が87%→84%→95%→93%であった。より充実した人権教育ができるよう努めたい。(○)</p> <p>(4) 高校生の項目26の評価は73%→68%→84%→86%であった。望ましい人権感覚が身につくよう、教育を継続していきたい。(○)</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">⑦ 社会貢献活動としてのボランティアの推進</p>	<p>ボランティア活動を行うための体制作りと活動支援および活動内容の充実</p>	<p>(1) ボランティア活動支援センターの体制確立</p> <p>(2) ボランティア委員会(生徒の組織)の校外・校内における社会貢献活動</p> <p>ア. 日本青年赤十字との連携〔オンライン〕</p> <p>イ. インターアクトとの連携(地域連携)〔オンライン〕</p> <p>ウ. 校内・校外企画 (クリーンハイク等)</p> <p>(3) 生徒募集イベントにおける「T-BEST」メンバーのボランティア活動</p>	<p>(1) 年度末報告</p> <p>(2) 50名による活動</p> <p>ア. 年8回</p> <p>イ. 年5回</p> <p>ウ. 年5回</p> <p>(3) 計7回のイベントに延べ130名が参加</p>	<p>(1) ボランティア委員会への指導・助言、外部連携機関との調整・取りつきを行なう体制が十分に確立されている。(◎)</p> <p>(2) ボランティア委員会に所属する中2以上の生徒55名が、随時参加し、ボランティア活動の充実を図っている。(○)</p> <p>新型コロナの影響を受け中止になった取り組みもあるが、オンライン等での参加も含め積極的に参加することができた。</p> <p>(3) 新型コロナの影響で、6月からの活動になったが学校説明会、学校・入試説明会、GLオープンキャンパスプロジェクト、計8回の活動に登録者143名が分担して積極的に参加し役割を果たした。今後活躍の機会を増やしていきたい。(◎)</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">⑧ 指導力および資質の向上を図る教員研修の実施</p>	<p>教員の指導力および資質の向上</p>	<p>(1) 研究授業の実施(年2回)</p> <p>(2) 主体的・対話的で深い学びに関する研修(全教員+各教科の推進メンバーを対象としたワークショップ)</p> <p>(3) 公開研究会の実施</p> <p>(4) 学びあい週間の実施</p> <p>(5) 教員向け人権研修会</p> <p>(6) いじめ防止教員研修会</p> <p>(7) 5年経験者研修</p> <p>(8) 新人研修</p>	<p>(1~2) 自己評価において項目27「他の教員の授業を見学したり研修を受けたりする機会がよく設けられている」の肯定的評価が85%</p> <p>(2020年度88%)</p> <p>(3) 年1回</p> <p>(4) 年1回</p> <p>(5) 年1回</p> <p>(6) 年1回</p> <p>(7) 年間を通じて4項目実施</p> <p>(8) 年間を通じて全15回</p>	<p>(1~2) 自己評価の項目27「他の教員の授業を見学したり研修を受けたりする機会がよく設けられている」が82%→79%→88%→96%であった。全員が積極的かつ自主的に研修に参加するよう促し、指導力の向上を図りたい。(◎)</p> <p>(3) は、新型コロナの影響を受け、実施できなかった。(4~8)の研修を概ね計画通り実施できたが、一部、実施できないものもあった。(△)</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">⑨ ICT活用教育の推進</p>	<p>BYODによるICT教育の充実</p>	<p>ICT活用教育推進委員会を中心としたICT活用教育の推進・環境整備・指導体制の構築を図る</p> <p>ア. メディアリテラシーを含めた教育体制の構築</p> <p>イ. オンラインの教育への有効活用</p> <p>ウ. 学習用デバイスに関するルールの改正</p> <p>エ. 校内環境の整備、システムの構築</p> <p>オ. ICT活用教育推進委員会による教員研修、生徒支援、広報活動</p>	<p>・推進委員、新任教員を対象とした教員研修の実施</p> <p>・オンライン会議システムを利用したセミナー等の実施</p> <p>・中3~高2(希望者)にオンライン学習の整備</p> <p>・教員、生徒のICT活用を支援する体制の確立</p>	<p>・ICT活用教育の教員を各学年に配置し、機動的に活用を促進する体制を整えることができた。今後は各教員のスキルやニーズに応じて、実践的に学べるようにしたい。(○)</p> <p>・メディアリテラシー教育の重要性がますます高まっていることから、デバイスの使用ルールなどについて改訂を継続的に行い、現状に即した指導を行っていく。</p> <p>・ICT支援員(テックスタッフ)の協力を得ながら教員、生徒のいっそうのデバイス活用を図っていきたい。(○)</p>